

## 畑わさびのナトビハムシに対する融雪直後処理の防除効果

## 【概要】

岩泉町の地域特産物である畑わさびでは、ナトビハムシ幼虫による食害（図1）が問題となっており、加工原料として収穫する年の越冬株に対し、ナトビハムシ越冬成虫出現時の薬剤防除を指導しています。近年、融雪が早く越冬成虫の出現時期も早まり防除時期が遅れる事例もあることから、薬剤の融雪直後処理による被害軽減効果を検討しました。

## 1 エトフェンプロックス粒剤の融雪直後処理の効果

- (1) ナトビハムシによる被害は融雪直後（越冬成虫出現始期）にエトフェンプロックス粒剤（商品名：トレボン粒剤）を使用することで軽減できます。（表）
- (2) 本剤を原料収穫年に使用する場合は、当該ほ場の融雪状況に合わせて融雪直後から幼虫加害発生前までに処理してください。（図2）



図1 ナトビハムシ幼虫による被害

（左：幼虫加害により葉柄が黒変した畑わさび、右：ナトビハムシ幼虫と黒変した食害痕）

		3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
ナトビハムシ発生活動		越冬成虫出現		幼虫加害	新成虫羽化・夏眠			夏眠明け成虫出現	
1年物	1年目	融雪直後～ ● トレボン粒剤	定植※	※定植時にもトレボン粒剤利用					
	2年目		花芽収穫		原料収穫				
入梅植え 2年物	1年目				定植				
	2年目	融雪直後～ ● トレボン粒剤	花芽収穫						
	3年目		花芽収穫		原料収穫				
秋植え 2年物	1年目							定植	
	2年目		花芽収穫						
	3年目	融雪直後～ ● トレボン粒剤	花芽収穫		原料収穫				

図2 ナトビハムシ発生活動と畑わさびの作型・トレボン粒剤利用時期

## 【試験データ等】

表 トレボン粒剤の融雪直後処理による被害軽減効果

供試薬剤	被害葉柄率(%)				対無処理比
	処理前	処理16日後	処理28日後	処理39日後	
	3月20日	4月5日	4月17日	4月28日	
トレボン粒剤	0	0	8.0	9.6	23.5
無処理	0	0	32.3	42.8	100

【摘要】  
トレボン粒剤の融雪直後処理により、被害葉柄率が低く抑えられます。

注1) 被害葉柄率は3連制の平均値、注2) 対無処理比は処理28日後、処理39日後の対無処理比の平均値  
【令和5年度成果】畑わさびにおけるエトフェンプロックス粒剤の融雪直後処理の効果 (R5-指-28)